

20m110発表記録

近代教育思想と教授学の成立

Microsoft Teams meeting interface showing a document titled "教育方法論 予習課題11 レポート課題". The document content is as follows:

教育方法論 m 第○回○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○テーマ「近代教育思想と教授学の成立」1 班○番号

(1)→「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●16～19 世紀には様々な人物が独自の教育観を唱えてきたが一概にどれがよく、どれが悪いとは言えずその時代・環境などにあったものを見つける必要がある。↓

ポイント 1)リアリズムとは地動説や万有引力説など実際の問題解決に有用な知識を重視する。

2)コメニウスの教育方法は「自然的教育」と呼ばれている。

3)2は子供自身に物事を観察させ自発的に理解させるという方法。

4)実質陶冶とは知識や技能の習得によって非教育者の精神内容を豊富にすることを目的としている。

(2)→その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●教授学とは元々は教える技術という意味である。それを人にあらゆる事柄を教授する普遍的技術として体系化したのがコメニウスである。↓

ポイント 1)教授学とは学習と研究の対象とする学問。

2)一般に教育内容に特化している点が教育学と異なる。

1/1 ページ 行: 3 581 文字 日本語 挿入モード

Bottom bar shows participant names: +8, 笠, 橋, 藤, 松, 鮎, 河, 北, 村, 関, 水, 東, 中.

1] 刊行のテーマ「近代教育思想と教授学の成り立ち」

16~19世紀に様々な人物が独自の教育思想を唱えてきたが、一概に良い悪いの判断はできず、その時代・環境に合うものを模索する必要がある。

2] 肯定的な意見

教授学とは元々は教える技術という意味。

3] 否定的な意見

教授学の意味は国によってまちまちだが、英語圏ではそもそも用いられていない。

4] まとめ

フレイクスが唱える「自然の教育」とは現代教育の「積極的」「主体的」に近いものと言える。

教育学の体系化と授業の組織化

Microsoft Teams meeting interface showing a presentation slide titled "教育学の体系化と授業の組織化". The slide content is as follows:

1)→ヘルバルト：教育には「教育」「訓練」「教授」3つの領域があり、品性の陶冶のためには管理を前提にし
ながら教授と訓練とを両車輪とする働きかけが必要である。目的を品性の陶冶（道徳的な品性を強める
こと）であるとした。←

2)→ヘルバルト：興味を既有的の表象（観念）群が新しい表象と結びついて類化（統覚）するところに生じるが
「専心」と「致思」が条件となる。「専心」は没頭。「致思」は「専心」により経験した意味（認知活動）。←
4段階教授法（指示・結合・教授・哲学）→弟子などが「予備→提示→比較→総括→応用」の5段階に変
化←

3)19世紀末の欧米では新教育運動が起き、その運動は子ども中心主義であったがデューイは、「子どもの成
長」と「社会全体のデモクラシー」を目的し、教育者と子供との相互作用があると考えた。基本的には助け
合う関係。←

4)この子ども主体的にし、その成長に必要なものはカリキュラムが不可欠である。カリキュラムは、教科書
の内容ではなく、いろいろな経験の中でそれぞれの子どもにおいて培われる知識技能である。学習者同士が
協力して共通の目的を達成しようとするオキュペーションないし「プロジェクト活動」が経験として最適で
ある。キルパトリックによってプロジェクト・メソッド化され「目的設定」「計画立案」「実行」「判断（評価）」
の一連になる。←

(2)→「17 中学校学習

The interface also shows a meeting control bar at the bottom with icons for chat, share, and other functions, and a list of participants including 野村 駿斗, 野村 駿斗, 野村 駿斗, etc.

カリキュラム研究の成立と展開

Microsoft Teams meeting interface showing a presentation slide titled "カリキュラム研究の成立と展開" (Formation and Development of Curriculum Research).

The slide content includes:

- 新しい時代の教育方法から**
 - ・学習の法則・制約と反りが適合するためには理解が必要である（効果の法則）ことや、学習が成立するためには反復練習が必要である（練習の法則）こと。
 - ・科学的測定運動（同一の評価基準に基づいて作られた問題により能力を測定する「客観テスト」を教育界に導入（多分、今の期末テストや入学試験のこと）。
 - ・上記の背景には官制制や科学的普遍法がある。
- ポイント**
 - ・社会的効率…学校のカリキュラムを工場労働、生産過程のみなした考え方。
 - ・活動分化…子供が社会化するために必要で有用な知識と技能を確定しようとした。
 - ・上記カリキュラム構成法の普及により、社会的な有用性と企業的な効率性が教育の在り方に影響を与えた。
- 単位とは**
 - ・ダルトンプランとウィネットカシステム…子供に自学自習のための学習材料を与え、それぞれの能力や要求に応じて進めるもの、教科内容を小さな単位に分けることにより教授の個別化を意図した典型的な例。（ここでは教材の一区切りは方法的単位（そもそも単位とは学習者の学習活動の内容のひとまとまりを指すもの）と呼ばれている）。
 - ・そして子供の興味関心に基づく生活経験上の問題を学習活動の単位としたヴァージニアプラン（作業単位を基礎としたもの）やマリソンプラン（学習単位を現代化したもの）が提唱された。
- タイラー**
 - ・問題解決能力としての「行動」の取得を教育目標として定める（行動目標）ことを用いた。
 - ・タイラーの原理…カリキュラムを固定したものと考えず、進捗的に改良を要する合理的なシステムであるという考え。
- ブルー**
 - ・ユーザーの画面が teams.microsoft.com で共有されています。 [共有を停止] [数値にする]

The bottom of the screen shows the Teams interface with participant avatars and a search bar.

各班ワークシート(各自と兼用)

1)(全体) 他班発表に対する意見、質問、感想

■(7) 班のテーマ (近代教育思想と)

○得点 (3, 2, 1)

○内容全体のポイント (定義、肯定面、否定面)

・16~19世紀には様々な人物が独自の教育理念を唱え、それが、いかに悪い時代環境にあってもかかわる人がある。

○意見・質問・感想

・コミュニケーションの教育方法をポイントとして選んだ理由

■(2) 班のテーマ (教育学の体系化授業の)

○得点 (3, 2, 1)

○内容全体のポイント (定義、肯定面、否定面)

・教育には、「教育」「訓練」「教授」の3つの言葉がある。

○意見・質問・感想

・目的の意見で、たまたまとはどんなことをするのか。

■(6) 班のテーマ (カリキュラム)

○得点 (3, 2, 1)

○内容全体のポイント (定義、肯定面、否定面)

・カリキュラムは西洋でさかんにおこなわれ時代とこれに様々な人により展開・研究された。

○意見・質問・感想

・人ごとのまとめられており、見やすい資料だった。

■(4) 班のテーマ (ICTの活用例)

○得点 (3, 2, 1)

○内容全体のポイント (定義、肯定面、否定面)

・iPadなど様々なICT機材を使うことで、理解が深まり、興味関心が高まる。

○意見・質問・感想

・解剖をいわれる生徒にはどういった処置をしますか。

■(5) 班のテーマ (ICTの活用例)

○得点 (3, 2, 1)

○内容全体のポイント (定義、肯定面、否定面)

・日本人の教員がたし発言していてもわかりにくい。と思うので、外国人の先生から発音を学ぶ。

○意見・質問・感想

・外国語(英語)は日本が遅れているので、よりネイティブな発音に接することで、学力の向上につながると思った。

2) (班内) 各項目等について出た議論

班のテーマ ()

各項目

班としての要約

班としての意見

3) 班の全体発表(模擬授業)に対する振り返り、自己評価

■振り返り

教育は、この教育法が正しいとい、たものではなく時代や環境にあわせて教育法を変化させ「教育」「訓練」「教授」の3つを意識する指導が必要がある。

■5段階班の自己評価 (3)

4) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■カリキュラムは、多くの人によって考えられてきた。それは西洋でさかんにおこなわれており、日本でも日本人にあったカリキュラムを構築させる必要がある。

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

■

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

4**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■教育方法やカリキュラムは、時代や環境とともに変化してきたが、現在の日本ではどんな教育法は向があるが考えた。

ICT活用例

Microsoft Teams meeting interface showing a Word document titled "ICT活用例 - Word". The document content is as follows:

ICT活用例
班 4

- 単 元
生物
- テーマ
ICTを活用した豚の眼の解剖
- ICT活用のねらい
 - ・iPad など様々な情報機器を授業に取り入れることで、理解が深まったり、興味・関心が高まり、教育効果を上げる。
- ICT活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT活用の場面 (解剖した眼の記録)	ICT活用の手順 ○解剖手順の説明 ・事前に教員が撮影した解剖の様子をスクリーンに投影して手順を説明する。 ○解剖	○解剖の場合は精密な操作を必要とするので、口頭やプリント資料での説明よりも、動画をみせながらの

1/2 ページ 484 文字 日本語

Meeting controls at the bottom show participants: 藤, 村, 水, 東, 松, 鮎, 中, 河, 橋, 野, 船, 北, 山, 関.

ICT活用例

Microsoft Teams meeting interface showing a Google Docs document titled "ICT活用例4.docx" being shared during a session.

The document content includes:

この授業はネイティブの先生がビデオ通話などを使って授業をし、補助目的で日本人の先生にも教室にいてもらう。

もちろん授業態度も評価に入るが、授業中に積極的に答えたや質問に答えるとポイントがもらえるようにして最終授業で合計何ポイントだったか、言ってもらいポイントも評価対象とする。

授業内容

- ・簡単な英語の会話などをする。
- ・英語で質問されて英語で答える。
- ・最初は英語の自己紹介文などを作って発表する。最後の授業では英語でプレゼンをする。また、短い英語の劇をする。と言った発表の場を作る。

授業形態



この形にすることで、教室を自由に立ち歩くことができたり、画面から教室の雰囲気が見やすいため。

備考
使用教科書 「・・・」(〇〇社)

The interface also shows a list of participants at the bottom: +7, 東, 松, 鮎, 中, 河, 橋, 野, 船, 北, 山, 清, 関, 濱, 村.

確認問題10

Microsoft Teams meeting interface showing a presentation slide titled "教育力法論 m" (Educational Competency Methodology m).

The slide content is as follows:

確認問題 10

(1) 協同的探究学習の研究からまとめられた「わかる学力」の形成につながる学習の要点を4つ挙げよ。

- ・自分だけのアプローチで多様な見解に出る導入問題。
- ・個別にも解答する時間を保障する。
- ・仲間との対話・対面を重視する。
- ・展開問題による問題を両設定し再び個別に探究

P163.

(2) 次の「できる学力」と「わかる学力」に関する

(4) 「日本の子どもの学力の特質」「手続き構成・適用学習」「協同的探究学習」のうち1つについて簡潔に説明せよ。

特質

できる学力 > わかる学力

定型的な課題 → 高い正答率

記述形式の問題 → 高くない正答率

The interface also shows a list of participants at the bottom: +7, 河, 橋, 野, 船, 北, 山, 清, 関, 濱, 藤, 水, 豊, 村, 東.

各班ワークシート(各自と兼用)

1)(全体)他班発表に対する意見、質問、感想

■(1) 班のテーマ(近代教育思想)

○得点(3,2,1)

○内容全体のポイント(定義、肯定面、否定面)

・教育観がどのように変わってきたか、大まかにまとめる。

・最近の傾向を捉える必要がある。

○意見・質問・感想

・今の教育観は自由や個性を重視する教育観。

・それは昔の教育観とは異なる。

■(2) 班のテーマ(教育の体制化)

○得点(3,2,1)

○内容全体のポイント(定義、肯定面、否定面)

・カリキュラムにおいて、有効な成長が行われる。

・子どもを主体とする教育が大事である。

○意見・質問・感想

・集団での授業で自主的な学習を促す。

・「教師-生徒」「生徒-生徒」のコミュニケーションは必須。

■(3) 班のテーマ(カリキュラム開発の成果と展開)

○得点(3,2,1)

○内容全体のポイント(定義、肯定面、否定面)

・多くのカリキュラムにわたる研究がある。

・主に20世紀頃

○意見・質問・感想

・カリキュラムの開発は、多くの人に与える研究である。

・たまたまそれだけだから、気づくのは昔の人のまね。

■(4) 班のテーマ(ICT)

○得点(3,2,1)

○内容全体のポイント(定義、肯定面、否定面)

・解題、指導書よりも動画でのほうが

・適する。理解が深まる。

○意見・質問・感想

・それは、実際にやることで明らかになる。

・実際にやるべきである。

■(5) 班のテーマ(ICT)

○得点(3,2,1)

○内容全体のポイント(定義、肯定面、否定面)

・授業での活用は、ICTが中心になっていない。

・ICTが中心である。

○意見・質問・感想

・これは、比較的人数的に少ない。学んだことも

・できるというよりは、まだできていない。

2) (班内)各項目等について出た議論

班のテーマ(教育の問題)

各項目

班としての要約

班としての意見

3) 班の全体発表(模擬授業)に対する振り返り、自己評価

■振り返り

■5段階班の自己評価()

4) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

■

・

・

・

・

4**) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■